

# 社会貢献活動

地域社会に貢献することを目指し  
様々な活動を展開しています



1

## タバコの害で苦しむ人を減らしたい

禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議

本会は、タバコと健康についての啓発活動を行う目的で、1999年11月5日に発足しました（発足時名称「禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議」2016年改称）。神奈川県予防医学協会は従来より健康のリスクファクターとしてのタバコ対策に取り組んできたこともあり、設立時より本会の事務局を担当しています。

会員は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療従事者をはじめ、教育関係者、法曹界、マスコミ、地方議員等多岐にわたっており、県民あがての禁煙・受動喫煙防止に向けて活動を展開しています。（2024年3月31日現在、個人会員125名、賛助法人会員9法人）

2010年に神奈川県では全国に先駆けて「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が施行

されましたが、まだ受動喫煙についての理解もあまり広がっていない時でもあり、本会もその成立に積極的にバックアップしてきました。

2008年に「第17回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会」、2018年に「第27回 同学術総会」、2023年に「第17回日本禁煙学会学術総会」を本会が担当して横浜で開催し、タバコ対策の情報を全国に発信しました。

2019年に、松沢成文参議院議員（元神奈川県知事）など来賓をお招きして創立20周年式典を開催し、25年が経過しました。

現在、教育現場や職域での喫煙防止への取り組みに協力し、講師の派遣や禁煙教育の開催、イベントなどでの禁煙相談を行っており、県民の健康を守りタバコの害で苦しむ人を一人でも減らしたいとの思いで活動を行っています。

2020年に改正健康増進法が施行され、受動喫煙防止対策は全国的に拡大しましたが、まだ喫煙率の更なる低下や、加熱式タバコ等の新型タバコへの対応などの課題が残されています。



## 2

## あなたとあなたの大切な人を守るために

—ピンクリボンかながわ18年の活動—

ピンクリボンかながわ事務局

乳がん検診開始当初、47都道府県の下位であった神奈川の検診受診率を改善したいと、事務局を神奈川県予防医学協会に置きピンクリボンかながわの活動を2006年から開始しました。

乳房モデルを使ったしこり体験や自己触診（ブレストアウェアネス）のレクチャーを軸に行政・企業・団体等と連携、ブース活動やピンクリボン自販機・マット・ウォーターボトルを作っていただくなど多くのご支援をいただいています。

神奈川県からのマンモグラフィ検診車貸与を機に2009年からピンクリボンライトアップ事業を展開、2022年から専門学校生にポスター・リーフレットのデザインを依頼、関連団体とも連携を強化し協力施設が大幅に増えて、15年目となる2024年は71ヶ所がピンク色に染まりました。若い人にもピンクリボンの意味を浸透させたいとSNSでのフォトコンテストを2023年から実施、400を超える写真の応募があり、それぞれの「ピンクリボンへの想い」



様々なイベントへの出展や、ピンクリボンライトアップによる啓発活動も実施



が表現されています。

コロナ禍では「検診は先送りせず習慣に」とのメッセージ動画を制作・配付し、今後は若い力が必要であると女子大学学園祭でのイベントを毎年開催、がん予防レシピの提案やSNSで乳がんに関する発信をしてもらいました。

乳がんで亡くなる人を一人でも減らすため検診受診率向上を目指して、これからも支援団体、若い世代とともに啓発活動・正しい情報発信に取り組んでまいります。

## 3

## 受動喫煙の無い環境を目指して

スモークフリー推進かながわ基金

本基金は、全国に先駆けて制定された「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」（2010年4月施行）の円滑な施行や、受動喫煙による健康への悪影響の防止対策及び自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するため、2009年8月に5団体及び県の呼びかけにより設置されました。設立時より神奈川県予防医学協会が県に協力してその事務局を引き受けてまいりました。

民間と県の協働による受動喫煙の防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を本県から全国に

発信し、社会全体のルールとして定着させるための事業を実施いたしました。

2020年4月に改正健康増進法が全面施行され、受動喫煙に関するルールは社会全体のルールとして法により整備されたことから、本基金の目的は達成され、役割を果たしたもとして、2023年度末に本基金は解散しました。

